

無所属

きじま

ひろつぐ

兵庫県・大阪府を合併する

関西州構想

播磨／丹波／但馬／淡路で

4大市構想

関西州＆4大市の利点①

東京と肩を並べる 関西経済圏の誕生

兵庫県と大阪府が合併してできる関西州は、人口規模で東京都を抜いて日本最大となります。経済の中心が東京だけではなく、東京・関西の二大拠点へ。ロサンゼルスとニューヨーク、北京と上海のように。新しいビジネスが始まる時も東京・関西の二大拠点同時スタートです。新しい産業を生み出す規制緩和（例えばライドシェア）がされると、東京限定開始ではなく、東京・関西同時開始になる環境が整います。

関西州＆4大市の利点②

五国それぞれの政策やサービスは 五国それぞれで

播磨・但馬・丹波・淡路については市町村への権限移譲と市町村合併を促進する制度をつくります。国が進めた平成の大合併の関西版です。丹波黒豆と淡路玉ねぎの戦略を神戸元町県庁で決めている現状が変わります。黒豆戦略は丹波で、玉ねぎ戦略は淡路で決めます。権限移譲により神戸元町県庁に来ないと出来なかった手続きは、播磨・但馬・丹波・淡路各地域と神戸市役所で出来るようになります。

関西州＆4大市の利点③

県庁不要＆五国五大防災拠点

関西州庁舎は現在の大阪府庁になるので県庁不要。防災拠点は4大市と神戸市役所に設置。災害時に高速道路や橋が寸断されている状態で神戸元町から陣頭指揮は執りません。災害時は被災地に一番近い拠点や役場に寝袋とテントを持って知事と職員が駆け付けそこで寝泊まりしながら指揮。県庁跡地は「神戸元町ヒルズ」のような民間商業施設にして家賃収入を経て、家賃収入と浮いた約1000億円を住民サービスに充てれば良いのです。一部残る部門は、近隣の新長田や新神戸のビル等に入居すれば十分です。

関西州＆4大市の3つの利点

※地方自治法6条に基づく特措法を制定、国が主導した平成の大合併の県版モデルをつくり実行します。兵庫県・大阪府に数百名からなる専門部署をつかって制度設計します。

きじまひろつぐプロフィール

49歳。上智大学在学中に阪神淡路大震災ボランティアに学生を数百人送り、自らも1か月活動。フリーランス勤務を経て2004年に起業。海外でも起業し14年間住む。